

こうりん



賀正

あけまして

おめでとーございます

新年あけましておめでとーございます。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年はアベノミクスによって、景気も持ち直してきたようで、世の中に希望の光も見えて来ようです。

しかし、一部の人々がその恩恵にあずかっているだけなのかも知れません。だれでもが、経済的に豊かさを感じられるかというと、まだほど遠いような気がします。

近代文明は大量のエネルギー消費の上になりたっているので、経済的な発展は自然破壊と背中合わせで成し遂げられてきました。健康で幸福な生活をおくるのが人類の目的なら課題はますます増えて来ているのではないのでしょうか？

社会がよくなるなくても、豊かな気持ちで生きる事はできると思えます。

新年のことばを送ります。

苦しみが

無くなるのではない

苦しみで

無くなるのです

檀信徒各位

ぎよきほうよう
御忌法要のご案内

聖名 新年明けましておめでとうございます。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、例年1月の「御忌法要」を迎えることになりました。

日本のお念仏の元祖、浄土宗開祖（法然上人）の祥月命日に
あたる1月25日の法要です。

浄土宗久留米門中寺院ご出仕のもとに、下記の通り勤めます。
ご多忙の折柄、恐縮乍ら、何卒万障お繰り合わせご参詣下さい
ますよう、ご案内申し上げます。 合掌

平成26年1月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拝

記

※期 日 平成26年1月25日（土曜日）

※時 間 午後1時より 法 要、御 回 向
午後2時より 法 話

※布教師 西蓮寺 今村 義臣 上人

※ご回向料

普通回向 1 霊 1,000 円以上

※お供え米、お供え米料 随意ご志納下さい。

毎日の本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※郵便振替等で申し込まれる方も位牌型をお送り下さい。

※銀行振込は ゆうちょ銀行一七九店
当座預金 0016114 ムリョウジ

法然上人絵伝

第四巻 第五段

法然上人、仁和寺に景雅上人を訪ねる

京都市御室に真言宗仁和寺がある。

この仁和寺に華嚴教学の大家といわれる景雅上人がいた。東大寺図書館に『華嚴五教止観』という本がある。こ

れは承安四年に七十四歳の景雅上人が書き写したものである。その目的は、

自分の臨終正念に極楽往生を願うためと、華嚴宗が盛んになることを祈るためであった。華嚴宗は兜卒往生を目的とする宗旨であるのに、景雅上人は極

楽往生を願っている。こうしたところに法然上人と思想的な結びつきを考え

ておきたい。法然上人は弟子の印西上人を連れて仁和寺に行った。華嚴

宗の不審なところを景雅上人に聞くためであった。景雅上人は「弘法大師の

十住心は、華嚴宗によって作ったものだ」といった。ところが法然上人は『大

日経』の「住心品」によって作られたもの」とであると主張し、天台宗や華嚴

宗の立場にたつ解釈をくわしく述べられた。それを聞いた景雅上人は今まで

自分にもわからなかったことがわかつ

たといつてよろこんび、法談は続いた。

景雅上人は法然上人に華嚴宗の血脈に名を連ねてほしいというので、血脈

と華嚴宗の書籍を受け取ったという。景雅上人は法然上人が円頓戒の大家

であると知り、円頓戒を受け二字（実名）捧げて上人の弟子となった。

法然上人が諸宗に通じている学匠であることは有名であったが、景雅上人

は仁和寺座主覚性法親王の前で、「仏教界には多くの学僧がいるけれども、

法然上人ほどの人はいない」とほめた。そこで覚性法親王は「天台宗

を学びたい」と申し入れた。すると法然上人は、「昔は型通り天台宗を学問

したけれど、今はただ念佛するばかりで、天台教学は忘れてしまった。比叡

山には澄憲上人が、三井寺には通願上人という名僧がいるので、その二人に

お願いしていただきたい」といって、いくら頼んでも聞き入れなかった。



院号授与

池光院 笠 サダ子 殿

11月23日お十夜法要の折、1名の方が院号をお受けになりました。寺の法要で法話を聞くということは、仏の世界の聞法の歓びに繋がることだと思います。日々念仏の道にご精進されることを願います。

二十五回忌
(平成二年)

青木 徳永 寺田 牛島 笠野 星野 高田 広津 松栄 藤村 田中 角中 江崎 宮崎 執行 富安 鞍打 平山 笠政 岡崎 角義 深野 古賀 丸山 具島 熊丸
ミヨノ殿 充彦殿 節子殿 富貴枝殿 峯蔵殿 林殿 クニエ殿 ユキエ殿 義人殿 羊三殿 宏殿 フミ殿 勝殿 ヨシノ殿 節子殿 勇夫殿 一二殿 ヨツエ殿 政春殿 栄太郎殿 義雄殿 市太郎殿 政人殿 ツゲノ殿 恒子殿 モモヨ殿

野田 篠原 平良 多賀 笠原 川原 安増 今村 田中 中原 築山 石井 中野 古賀 山口 山由 笠由 中尾 川浪 中津 緒方 熊丸 伏原 田中 原野 平田
正男殿 ヨシノ殿 三郎殿 正六殿 チクエ殿 ヒサエ殿 キミ殿 道子殿 清明殿 清人殿 チトセ殿 睦子殿 卯平殿 シゲヨ殿 秀雄殿 太郎殿 ヤエ殿 恒稜殿 福三郎殿 正次郎殿 均殿 信義殿 シヅ子殿 フサエ殿 政夫殿

三十三回忌
(昭和五十七年)

大塚 下川 柴田 緒方 肥後 津福 徳永 中野 久光 松栄 坂井 岡野 山本 中原 森山 古賀 高田 熊丸 澤丸 久富 堤正 熊丸 田中 中尾 森上 井上
きん殿 博殿 ユタカ殿 輝男殿 橋清殿 ミサヲ殿 陽造殿 カヨ殿 喜久次殿 丈雄殿 源吾殿 正三殿 隆定殿 栄章殿 ツタエ殿 定殿 イワノ殿 正男殿 時次殿 コト殿 トモ殿 ヤスエ殿 イスエ殿

五十回忌
(昭和四十年)

田辺 鶴町 深野 川野 田中 古賀 川原 橋口
ムサヲ殿 サマ殿 リウ殿 佐太郎殿 辰次郎殿 オサメ殿 倫殿 キクヨ殿 克己殿 かおり殿

中原 江崎 坂井 岡野 高尾 辻ミ 江口 江上 堀川 藤井 近藤 甲斐 龍頭 中原 古賀 田中 江上 井手 久保 緒方 宮原 林田 中原 太田 小野 花田 笠井 笠野 稲益
礼子殿 達哉殿 喜三殿 マス殿 ササ殿 マスヨ殿 秀照殿 守メ殿 トメ殿 宇三郎殿 米蔵殿 シメ殿 義人殿 章子殿 辰蔵殿 順正殿 金助殿 実之吉殿 ツル殿 タネ殿 サキノ殿 カメ殿 新市殿 新吾殿 ハズミ殿 一郎殿

荒木 古賀 檀野 平田 坂本 葉田 吉野 首藤 浜田 森田 澤田 大塚 中原 岡野 山中 山崎 小川 内野 倉重 青木 古賀 木下
源親殿 庄太郎殿 ソヨ殿 ヨシ子殿 ミキヲ殿 絹代殿 ミチヨ殿 肇殿 道子殿 三郎殿 肇子殿 太郎殿 太一郎殿 カツエ殿 喜美子殿 輝雄殿 幸夫殿 茂殿 クニヨ殿 曆蔵殿 ハツヨ殿